

Information über Prof. Schaaff in japanischer Sprache :

シャーフ教授の日本語での情報はこちら

ウルフ＝ディーター・シャーフは、1995年よりベルリン放送交響楽団(RSB)のソロ・フルート奏者として活躍している。デュッセルドルフ生まれの彼は、ベルリンでアンドレアス・ブラウに師事し、バーゼルでペーター＝ルーカス・グラーフに師事しながら、教育学部ならびにオーケストラ科の課程を修了し、ケルンでアンドラーシュ・アドリアンのもとドイツ国家演奏家資格を得た。その後、オーケストラ奏者としてバーゼル、デュッセルドルフ、メンヒェングラートバッハ/クレーフェルトで最初のステップを踏んだ。

ソロ・フルート奏者としては、レックリングハウゼンにあるヴェストファーレン交響楽団で最初の経験を積んだ。臨時のソロ・フルート奏者として、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団でも活躍した。

オーケストラでの活動の傍ら、ウルフ＝ディーター・シャーフはソロ奏者としても舞台に上がっている。主な活動としてコトブス州立劇場フィルハーモニー管弦楽団やノイエ・フィルハーモニー・ヴェストファーレンとの共演があげられる。彼が活動の拠点を置いているRSBでは、フルートコンサートという名目のもと、カール・ニールセン(マリン・オールソップ指揮)をはじめ、カール・ライネッケ(アンドリス・ネルソンス指揮)、ゲオルク・フィリップ・テレマン(アンドレア・マルコン指揮)の作品を披露した。彼はまた室内楽奏者としても活動している。

彼は「ベルリンの14人の笛吹きたち」の結成メンバーであり、RSBの吹奏五重奏団にも所属している。彼が発起人となり、毎年、ベルリンのヴァンゼー・ヨットハウス協会の歴史的なクラブハウスの中でコンサートが開催されている。さらに彼は世界的に人気のある名講師でもある。ポーランドやドイツのマスタークラスをはじめ、1994年からは韓国、2015年からは台湾で講義を行っている。

2000年には、フランツ・リスト・ヴァイマル音楽大学フルート科の主任講師に抜擢された。日本では2003年より、倉敷市のくらしき作陽大学にて、客員教授として教壇に立っている。さらに日本ではピアニストの中根 浩晶との共演で名古屋にある「三井住友海上しらかわホール」でコンサートデビューも果たした。その後、東京、大阪、名古屋をはじめとする都市で、コンサートや講義を繰り返している。それだけでなく、彼は定期的に日本の音楽誌「THE FLUTE」で楽曲分析の記事を書いている。

2015年には日本を代表するフルーティストの一人である中野真理氏とジョイントリサイタルを東京、大阪で開催するなど、日本の演奏家達との交流も積極的に行っている。

ドイチュラントラジオ・クルトゥーアとの共同制作で、フルートとオルガンのための作品を集めた彼のCD「horizontal & vertical」また、Es-Durレーベルから(日本ではNaxos Japan取り扱い)は、ピアノとのソロアルバム「Luftpost aus Wien / ウィーンからの便り」もリリースされている。いずれの作品も、専門誌から素晴らしい評価が寄せられた。現在、数々のトップアーティストの録音を残しているPENTATONEレーベルより、モーツァルトのフルート4重奏の録音を控えている。

01.06.2016.

Japanisch : 日本語